

2023 年度総会結果(保留分の終了)

(1) 経緯;

3月26日の総会(2023年度)において2号議案「2023年度会計報告」(監査報告書含む)について質問;

・収入の部の6-4座談会後の親睦会参加費(57,000)が何故収入合計に含まれないのか。

に対して、親睦会参加費の状況や詳細内容については後日報告回答することとし、決議を保留とした。

この後、監査会議回答を当日出席者(Zoom参加含む)19名に3月31日付けでメール連絡した。

(2) 返信結果;

出席者19名からの返信状況は以下の結果であった。

★2号議案

A.同意する;12名、B.同意しない;3名、C.返信なし;3名 D.その他意見;1名

●Bの理由(要約)

1. 予算との比較、総経費が把握できず「従来の計上方法」(注1)にすべき、
2. 収入があって、即支出された金も収支に記録されるべき。

●D;その他意見;

考え方は、口座に記録される前提という考え方ではなく、お金の動きに関しては1対1の考え方を適用して収支記載頂ければと思います。

●なお、決算結果(繰越金)に対するコメントはなかった。

(注1)①第9回基幹座談会後の親睦会と②第6回機械技術者生活を語る座談会(代表会後の親睦会含む)の2つの親睦会に対する収支報告に基づいて、収入の部に①と②の参加費合計額を括弧書きとせず収入決算とし、支出の部に、①～②の総経費額(収入(参加費)合計額+会計データ(口座出金)合計額)を支出決算額とする説明方法。

★5号議案

A.同意する;15名、B.同意しない;0名、C.返信なし;3名、D.無回答;1名

なお、総会不参加会員の2号議案と5号議案の出欠回答での返信状況は、いずれも賛成39名、反対0であった。

(3) 議長判断; 2号議案と5号議案は承認とし、総会議事は終了とする。

以下の理由により、承認には該当する。

- ① 今回の会計報告における親睦会の収支計上方法は、会計データ(口座記録)と照合しやすいように従来の説明方法を変更したものである。すなわち、会計データと照合できない

収入決算は括弧書きで明示・記録し、機械クラブからの支出は、会計データと照合できる括弧書きなしで計上している。総経費は親睦会の実績を記録した個別の収支報告で説明できる。

- ② この状況は、2号機議案においては、機械クラブ会則第8条に基づいて財務部会が経理を行い取りまとめており、監査する監事2名が監査会議を開催し財務部会長提示の会計データ(口座記録金額)と照合確認して、問題はなく監査報告されている。
- ③ また、口座管理を担当する財務部会の説明方法は、従来の方法ではないものの、会計データと照合され間違いはない。
- ④ 5号議案は、参加費が会計データに記録される前提で従来の方法で計上されており、また、2号議案の繰越金が5号議案における収入予算の繰越金になるので、問題はない。
- ⑤ 2号議案及び5号議案に対する出席者の同意回答は過半数であり、過半数の承認を得た。

(4)財務管理に関する会長見解

機械クラブはボランティアによる自主活動として各部会が連携して運営されており、各活動が円滑になるように調整している機械クラブ会長の立場で、以下説明します。

(1) 総経費を支出に計上する方法

- ① 今回質問があった「6-4 座談会後の親睦会」に関する会計報告を従来のように2回分の参加費を収入とし、総経費を支出として損益計算書のように計算して繰越金の妥当性を説明する方法にするほうがよいという意見がありました。これは、全項目の収支により繰越金の根拠が求められるという方法で、従来の方法です。
- ② また、この方法は法人が作成する損益計算書の会計方法と類似するものではありませんが、収支の結果として損益(機械クラブ負担)が明示されませんので、法人が通常作成する損益計算書とは異なります。
- ③ また、予算との比較ができないとの意見について、決算では予算と比べて実態が異なりますので、全体して繰越金の妥当性が説明できればよいと考えます。今回の場合、総経費は、収入と支出を合計した額として求められ、これを対照することにより予算と比較可能です。
- ④ なお、機械クラブ口座管理を担う財務部会は支出額と口座出金額と照合できないことから、決算書の支出総額は口座出金総額と一致しません。

(2) 機械クラブへの収入と支出を、個別に1対1として計上する方法

これはその他意見であり、参加費を収入とし、支出を「総経費-収入」として1対1に計上し、収支から繰越金を計算する方法もあります。この場合、機械クラブの経費(機械クラブ負担)が明確になります。

なお、参考に繰越金を除いた機械クラブの決算において、今回の会計報告に基づいて計

算すると、2023年度の【総収入額】は1,660,020円、【総支出額(機械クラブ負担)】は1,409,234円で、決算(収入-支出)は、250,786円の黒字でした。

なお、次年度の予算に反映できる2023年度繰越金決算(1,683,850円)は2024年度の1年間の活動経費(収入を差し引いた機械クラブ負担額予算;1,668,000円)を賄うことができるかどうかの観点から重要になるので、従来から繰越金の説明を重視しています。(別途年会費積立金;160万円有り)

(3) 口座入出金に基づいて計上する方法

- ① 今回の計上方法は、口座入出金を重視して、これを集約する形で計上して、次年度への繰越金の根拠を説明する方法になります。
- ② 「6-4 座談会後の親睦会」では、開催場所で精算(今回の場合、参加費を徴収して飲食費を現金払いした)し、不足分を機械クラブ口座に出金を求めた方法は、各々のバランスシートが作成された後、財務部会に報告され、これを受けて財務部会は機械クラブ口座から不足分を請求先に出金した運営は合理的であります。
- ③ バランスシートとは、参加費と機械クラブ負担の合計が総経費と一致するように計算する方法で、法人会計では貸借対照表に該当しますが、それぞれの項目額が明確になり、参加費収入記録と機械クラブ負担の出金を求める根拠になります。

(4) 今後の計上方法

以上の(1)~(3)の3つの方法は、繰越金の妥当性を説明する目的は同じになりますが、夫々お金の流れを把握していく方法は異なります。

口座管理を担う財務部会としては、実態と合致・確認しやすい機械クラブ口座入出金実績に基づいて会計報告していることに対しては合理的で間違いがなく、繰越金の妥当性を説明できますので、このような自主活動を尊重する必要があります。

従って、会計報告は、財務部会の方法(口座入出金に基づく収支計上を行う方法)を今後も尊重することとします。

以上

2024年4月9日

神戸大学機械クラブ会長

総会議長(2023年度)

玉屋 登 M②

通知先;総会出席者(敬称略);平田明男、西尾 一生、豊原 信、松本啓史、玉屋登、谷 民雄、柄谷祐司、白石 皎、永島忠男、松田 勝、富田佳宏、小嶋弘行、白岡 克之、西田 勇、舟橋 公廣、栗本 遼、副島宗矩、浅野等、林公佑